

5. 新しいセクターである「住民懇談会」を中心とした持続的まちづくり

玉川学園地域を考える住民懇談会
(東京都町田市)

I. 活動組織の特徴と、取組み経過

助成対象となる中心的活動は、「坂道に名前をつける」であるが、その他に、「10年間の住民懇談活動のまとめ」「都営住宅建替えへの参加」という、合計三つの活動を予定しての一年間であった。ところで玉川学園地域を考える住民懇談会の特徴について、助成申請書には次のように記した。

- ・活動の実践性：参加の満足度が各人に得られ、かつ現実に環境を改善していく。
- ・活動の持続性：住環境は永遠のもの。過去10年間の経過を次の世代にも引き継ぐ。
- ・取組の専門性：普通の市民を主メンバーに、建築・都市・デザイン等の専門家も参加。
- ・他との連携性：町内会や給食サービス・子供活動育成団体等と協調し、市役所とも結ぶ。
- ・組織の先進性：専門家も加わったいわゆる第4セクターとしてNPO的活動を目指す。
- ・参加の任意性：だれでも参加。年会費以外は義務なし。面白いと思ったら即参加。

これらの六つの特徴を発揮することが新しい意味の住民活動になると我々は考えたわけである。そのため、1年間の初め、中間、終わりには会員はもちろんとし、だれでも参加し意見の言える「全員集会」を開催することをまず決めた。全員集会が活動内容を決定し、また、成果を共有するところの最高機関となる。

これのもと、活動を企画し、他の団体等へ働きかけて協調を呼びかけ、かつ、実際の行動をする組織として「世話人会」を置いた。もっとも毎月一度を原則としてもたれる世話人会には、だれでも顔を出せる。世話人会の構成員は、日常的に地域活動を行っていて他の諸団体とも交流のあるメンバーと、まちづくりに専門的知識経験のあるメンバーの組合せとなるようにした。世話人会には、助成対象となった三つの活動を担当する「部会」と、「記録・広報担当」を置いた。各部会は相互に連絡を取り、必要な協力はしながらもそれぞれのスケジュールで行動した。

II. 成果・今後のこと・住民懇談会の意義

一年間とはいえ、住民懇談会としての年来の計画が一挙に三つ進んだ。もちろん設立10年目を迎える頃で、企画がたまっていたということはあったにせよ、財団の支援が大いに役立ったことは多言を要さない。

1. 成果について

(1) 10年間の住民懇談会の歩みを整理し、刊行できたこと。

この作業過程で、住民懇の持つ第4セクター的性格が確認できたと思う、ただし資金が足りず、



「ふれあい坂」道標除幕式

成果物の全戸配付の計画は果たせなかった。町内会会報を通じて、刊行を周知したい。

(2) 坂道に愛称をつけ、道標を設置できたこと。

これが助成の目玉であった。幸い、置かせてもらう居住者や石屋さんの全面協力が得られ、我々としても予想以上の、見事な石の道標が設立された。



「花影坂」の道標

(3) 地域参加で都営住宅の建替えを行うこと。

これはまだ現在進行中で、問題含みであるが、都の積極的な対応と、地元も何とかまとまって行動できたことで、ともかくも一応の段階に到達することができた。当初は予定に入っていなかった子供たちの学外学習グループ「地区対」がこの問題に乗り出してくれて予想を超える成果に結びついた。

2. 今後の住民懇の活動について

何よりも活動の持続性が強く求められるだろう。都営住宅建替え問題がその核の一つであることは言うまでもないが、住民懇は裏方にまわり、今回の地区対や、高齢者支援のボランティアグループ等が表に出られるよう、調整役に徹するべきだろう。

来年度に考えているのは、10年前に実施した「環境アンケート調査」に、内容を充実して再度取り組むことである。この仕事は町内会との共催が必要で、今回のまとめや反省も含めて、町内会やその他の団体との話し合いを行うことあたりがとりあえずのスタートと考えている。

3. 住民懇談会再考

この一年間に我々の会が果たした役割は大きいようでもあり小さいようでもある。当事者が冷静な分析をすることの無理は承知の上でだが、この会の経験から特記されるのは、

- (1) 全員参加と全員の意志反映を前提とする町内会や、任意参加のボランティアグループである地区対といった「実績のある組織」と、我々の組織は役割が違っていることの確認が必要なこと。いわば THINK & DO を行う組織に対し、こちらは DO に出せる力がいささか弱く、どちらかといえば THINK を主体としていると考えられる。これはまた、いわゆる中間セクター論につながる議論となろう。
- (2) THINK 活動には、二つの内容があるようだ。一つは、例えば今回の坂道の名前付けでは、道標の材料選びやデザインで、都営住宅建替え問題では計画内容の検討で発揮されたような「専門的」知識経験の分野についてである。もう一つには、会議の進め方、役所との交渉の仕方、情報を共有する方法の開発、各種活動団体への働きかけといった、活動の進行管理に関する知識経験の分野についてである。

といった二点が我々住民懇の立脚点であることを実感を持って指摘して、一年間の活動をひとまず終わりたい。